



MESSAGE FROM THE PRINCIPAL'S OFFICE

校長室だより 1月号

河内長野市立高向小学校

令和6年1月9日



謹んで新年のご挨拶を申し上げます

令和6年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。このたびの能登半島地震により被災されたみなさま、ご家族のみなさまに心よりお見舞い申し上げます。

大規模地震に関連して不安を感じた子どもたちも多いことと思いますので、本日の始業式や学級指導では、ここ河内長野市でも、たくさんの大人が力を合わせて防災・減災に向けて取り組んでいること、避難所となる高向小学校にも防災の設備があることなどをお話ししています。また、地震避難訓練や理科・社会科の学習などで災害について学んだことを学年に応じた振り返り、命を守る行動を確認しました。

ご家庭におかれましても、放課後や休日に災害にあったらどうするかなど、家族での決まり事をお子さまとともに話し合い、確かめていただけたらと思います。

本年もより一層充実した学校教育活動をめざして教職員一同努力してまいります。保護者のみなさま、地域のみなさまには、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

言葉を使いこなす力をのばす

ここ数年で、YouTubeでの学習動画やAIが答えてくれるチャットGPTなど、学習を補助・補完してくれる便利なものが次々と出ています。ところが、その便利さを逆手にとって、今回の震災でも架空の救助要請や寄付の呼びかけなど「なぜこんな時に」と憤りを覚えるようなSNSの偽情報も出てきています。

このような悪質な情報に振り回されず、便利なものを便利なものとして使いこなすために、子ども時代にたっぴりと活字を読みひたり、自分自身の感想や考えをもつこと、また、その考えを言葉にして書き表す力を鍛えておく必要があります。

○Best Book Battle(B1)が開催されました。

読み書きの力を鍛えるにはまず読書です。子どもたちにとっては、毎日が言葉を使いこなす力を伸ばすチャンスであり、学校でもすきま時間の読書を楽しめるように学年に応じて教室に学級図書を用意しています。また、河内長野市でも読書体験推進のため、昨年度に続きBest Book Battle(B1)大会を開催しました。国語科の学習の一環で、目的は「子どもどうしがゲーム感覚でお勧めの本を紹介しあうことにより、『本を読んでみたい』と感じるきっかけづくりとする。」「言語活動を通して、目的に応じて情報を整理する力、適切な言葉でまとめ構成する思考力、互いの立場や考えを尊重して伝え合う表現力を育成する。」の2つです。

オンライン上に市内小学校の5年生が集い、各校の予選を勝ち抜いた代表児童がおすすめの本を紹介し合います。高向小学校では、事前学習として経験者の6年生にお手本となる本の紹介をしてもらうところからスタートしました。おかげで、どの子も自分の読書体験を共有する楽しさを知ることができました。本番では、初めて出会う他校代表児童の本紹介に集中して聞き入っている姿がありました。



高向小学校代表の紹介は、「表現が豊かだったで賞」に選ばれました。5年生の仲間も、選出から参加していたので自分のことのように大拍手。美加の台小・長野小の子どもたちからの質問にも分かりやすく答えて、さすが代表、しっかり本を読み込んでいるなあと感心させられました。

○家族で楽しむ読書も人気です。

ご家庭では今年の干支「辰」にちなんだ読書はいかがでしょう。「辰」は十二支の中でただ一つ架空の生き物で、古来より中国で権力の象徴・縁起の良い生き物とされ、絵本や物語の中にもよく登場します。松谷みよ子さんの『龍の子太郎』は昔からある物語で、読み聞かせに取り上げると子どもたちが毎日楽しみにして聞き入ってくれたことを覚えています。おのりえんさんの『でんでら竜がでてきたよ』は課題図書にもなったお話で、NHKの番組「にほんごであそぼ」で童謡「でんでらりゅうば」が取り上げられていたこともあり、お家の方も一緒に楽しく読んだという方がいらっしゃるのではないでしょうか。

「家族と一緒に」といえば、2023年の日本出版販売のまとめたベストセラーに、絵本や学習参考書が複数ランキング入りしたそうです（令和5年12月27日読売新聞）。総合部門の第1位は小杉拓也さんの『小学生がたった1日で19×19までかんぺきに暗算できる本』、第2位は鈴木のりたけさんの『大ピンチずかん』。図書室でも大人気で、大人が読んで楽しむのでおすすめです。

読書体験は、子どもたちの知識となり見通しとなって、新しいことへの抵抗感を減らします。自分で思うように言葉を使えるようになると、「分からないことは調べてみよう、人に聞いてみよう、自分でやって確かめてみよう」というチャレンジ精神にもつながります。家族と一緒に読書を楽しむ時間は、今の子どもたちに、時代をたくましく生きていく力を育む一歩となると考えています。